

昨今、労働組合内部に於ては消費組合の重要性を感じ来り、消費組合を以て  
 「労働運動が現実化する」といふに於ては、實際生活と利害関係重大なるものとし  
 労働組合運動の兵站部の充實と、之を通じて組合員夫人連の組織とがある。ストラ  
 イキに於ては、労働者の結束の崩れるのは、いつも台所からである。サーベルの花と棍棒の  
 唸り、白刃の閃きも覚悟を決めた四能業者の前には何等の権威に値しない。否、却つて  
 並々四能業者の意気を高めろの叫びだ。然るに、此の官憲の壓迫、反動団体の暴徒に  
 屈せぬ猛者連も、家へ帰り、空の米櫃を握りて餓餓に迫つてゐる妻子の顔を見れば、  
 張りつめた勇氣も消えてしまふ。此の時吾等の消費組合があつて幸議中の兵糧増産を  
 けて呉れ、又之れによつて組織された夫人連が亭主を激励してくれれば、争議は  
 必ず勝利である。その他消費組合を通じての協同戦線の形式、未組織大衆との接觸  
 及其組織、下層のプナブルとの政治的提携等、挙げれば末れば其の職分は實に磨  
 びこる。吾等は吾等の戦闘力を、小強大にするため、吾等の戦線を、小強大  
 にするため、吾等は消費組合を作らねばならぬ。」(労働新聞、大正十五年七月  
 二十日)と云つて居る。

如斯く、消費組合を労働組合の兵站部たらしめんとする活動は、昨今長しく明と

あつて来た。

総同盟全國大會(大正十五年十月三日、五日)に於ては、「総同盟内消費組合設  
 置に関する件」(尾崎聯合會提出)を提案し、「この際、社會部の所制の下に消費  
 組合同盟組織準備委員會を設けて、該同盟の設置を促進するやうにしたい」とい  
 満場一致可決したのである。従来総同盟関係の消費組合として、野田、鎌倉、労働  
 組合、野田利用購買組合(大正十二年、爭議上際、創立)及び総同盟関係、大  
 崎支部の大崎消費組合の二組合であつたが、本年七月、鎌倉支部、鎌倉労働組合  
 が田島消費組合と連友同志會が共働通信購買組合(大正十五年七月)を、五統  
 田合同労働組合が土崎消費組合會(大正十五年十月十日創立、出資額一十二万、現  
 在方法一口に付金一月以上とす)を開始し、製網労働組合、川崎支部、横浜工信會、  
 廿目下設立準備中であつたと云ふ。

総同盟、関東同盟會、理事會は、昨年八月二十一日、関東に於ける、総同盟関係消  
 費組合の統一を計るため同盟會事業部を充實し、消費組合の統一の任に當るこ  
 ととし、野田利用購買組合の主体たる、関東釀造労働組合は、昨年七月十日の、第四回大  
 會に於て「消費組合統一に関する件」を協議可決、各支部と連絡し、共同購買を行